

Bonjour

ボンジュール!!

2017年
5月16日号

Vol.356



5月の見通し

株高を支える力強い経済成長

● 力強い経済成長が株式を下支え

フランス大統領選挙においてEUを支持するマクロン氏が勝利したことを受けて欧州政治の先行き不透明感が後退しました。

世界的に景気が回復傾向にあるなか、懸念材料が一つなくなり、株式市場は好調です。こうしたなか、欧米では金融引き締め動きがあると思われます。

米国では労働市場とインフレ率が共に力強い内容であることから、米連邦準備制度理事会(FRB)は年内に複数回の追加利上げを実施すると見られます。

一方、3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録では、バランスシートの縮小についての言及がありました。バランスシート縮小による金融引き締め効果を考慮すれば、今後の米利上げペースは鈍化する可能性があります。

また、**欧州中央銀行(ECB)も量的金融緩和政策の縮小に向けて動き出す**と思われ、今後数ヵ月以内に2018年以降の量的緩和縮小に向けて何らかの発表を行うと見ています。

● あの国の株式はアンダー・ウェイト

フランス大統領選挙では、2016年に英国と米国で吹き荒れたポピュリズム(大衆迎合主義)の波は、欧州大陸に上陸するには至りませんでした。

政治的な不透明感の後退を受けて、**欧州株式の評価を引き続きオーバー・ウェイト**とします。

日本株式の評価は引き続きフル・オーバー・ウェイトとします。

景気動向が引き続き堅調である他、**先進国株式市場の中では割安感が際立っているから**です。

一方、**米国株式の評価は引き続きフル・アンダー・ウェイトとします。**

複数の指標で見ても、バリュエーションは過去最高水準にあるからです。例えば、12ヵ月先予想PER(株価収益率)は1999年のITバブル崩壊寸前の時期と同水準です。

2017年の米国企業の業績見通しが下方修正傾向にあることも考慮すれば、米国株式市場に対して強気にはなれません。

● Sell in Mayでも株式に明るいサイン

「Sell in May(株は5月に売れ)」という相場の格言にもある通り、5月から9月にかけての株式市場は歴史的に軟調となる傾向があります。しかし、**株式にポジティブなサインが見られます。**

資金フローを見ると、2017年に入ってから債券ファンドへの資金流入額が1,190億ドルに達している一方、株式ファンドにも1,070億ドルと金融危機以降で最大規模の資金が流入しているからです!